

営繕のあゆみ'90



沖縄県土木建築部建築課

●目次

1. 目次	1
2. あいさつ	2
3. 特集(沖縄コンベンションセンター劇場棟)	3
4. 建築課	
総務部	13
生活福祉部	14
環境保健部	15
農林水産部	16
商工労働部	17
土木建築部	17
警察本部	18
5. 県庁舎建設局	19
6. 住宅課(県営住宅)	20
7. 病院管理局(県立病院他)	21
8. 教育庁(学校施設)	22
9. 参考資料	
過去5年の工事費及び工事件数推移	23
工事概要一覧	24
10. 沖縄県行政機構図	28
11. 編集後記	29
12. 編集スタッフ	30

沖縄コンベンションセンター劇場棟

沖縄コンベンションセンターは、県都、那覇市から国道58号を北上し、宜野湾市真志喜の西海岸に位置している。当施設の東側には宜野湾市の公園、西側には基の marina 施設があり、さらに、北側には海浜公園(ビーチ)が整備されつつある。昭和62年に大展示棟、会議棟が完成し、今回の劇場棟で沖縄コンベンションセンターの全施設が整った次第である。

劇場棟は、約1,800名収容のオーケストラ、オペラ、演劇等が開催できる舞台装置を備えた大劇場である。

この施設の最大の特徴は海浜に建つ劇場として客席の両側と舞台後部に大窓を設けて海の見える開放的な空間を造り出していることである。

また、ゆるやかな曲面の緑青色の大屋根で覆われた外観は訪れる人々がこの建物に記念的に忘れ難い印象を残せるように意図されている。



●工事概要

所在地▶沖縄県宜野湾市真志喜

工期▶昭和63年1月25日～平成2年7月15日

敷地面積▶55,553㎡

面積▶建築面積：5,945㎡ 延床面積：9,219㎡

高さ▶最高高さ：37m 軒高：30.4m

構造▶鉄骨鉄筋コンクリート造

大屋根部分：鉄骨梁に鉄筋コンクリート造スラブ、平屋部分：コンクリート造

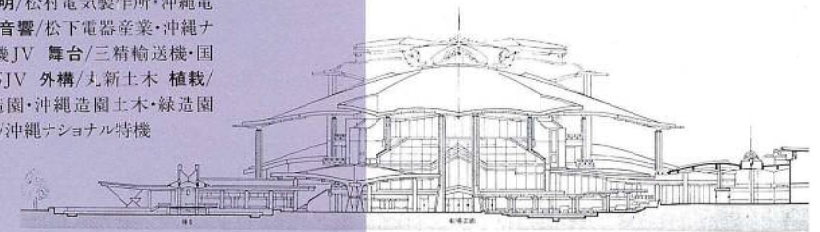
階数▶地下1階、地上7階

設計▶大谷研究室・国建設計共同企業体

(構造：青木繁研究室、音響：永田根音響設備)

工事費▶3,834,180千円

施工▶建築/竹中工務店・国場組・大城組・南洋土建JV 電気/三協電気工事・共電工事・丸高電気工事・大謝名電工JV 空調/東洋設備・琉球冷機・比嘉工業・中部設備工業JV 衛生/中部ユティリティ・丸産業JV 照明/松村電気製作所・沖縄電気工事JV 音響/松下電器産業・沖縄ナショナル特機JV 舞台/三精輸送機・国和設備工事JV 外構/丸新土木 植栽/赤嶺総合造園・沖縄造園土木・緑造園JV 昇降機/沖縄ナショナル特機



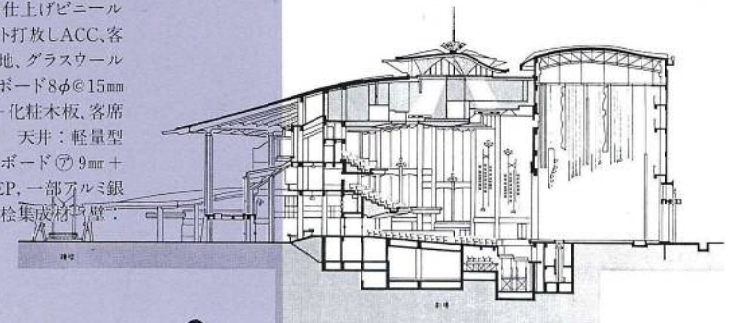
外部仕上▶屋根/大屋根：銅板下地用モルタル(スカイモル)人工緑青銅板(φ)0.4mm、低層屋根：アスファルト防水押えコンクリート、ラスタ―釉モザイクタイル

外壁/コンクリート打放し、アクリル樹脂カラークリヤー吹付け(ACC)

開口部/金属製具、ガラススクリーン

内部仕上▶ホワイエ/床：モルタルコテ仕上げタイルカーペット 壁：コンクリート打放し、ACC、一部型抜きレリーフ 天井：軽量鉄骨下地ロックウール吸音板

客席/床：モルタルコテ仕上げビニール床シート 壁：コンクリート打放しACC、客席後部―軽量鉄骨下地、グラスウール32K(φ)25mm、吸音FGボード8φ@15mm(φ)8mm、軽量鉄骨下地―化粧木板、客席扉―洛匠織布蒲団張り 天井：軽量型鋼天井下地組―石膏ボード(φ)9mm+9mm、継目処理工法―EP、一部アルミ銀もみ紙貼り 舞台/床：桧集成材 壁：コンクリート打放しACC



●建築概要

●劇場棟は、既に完成している会議棟(2,366㎡、500席)、大展示棟(7,464㎡、5,000席)に続き、沖縄コンベンションセンターを構成する第3の主要施設として完成された。

●全体の配置計画の中で、会議棟、展示棟、劇場棟が、それぞれ独立した建物としても、また、一体的な施設としても利用できるように計画されている。

●劇場棟は、施設全体の正面玄関である南北軸の水辺の中庭広場の西側に配置され、沖縄コンベンションセンターの事務局も、この建物に含まれている。

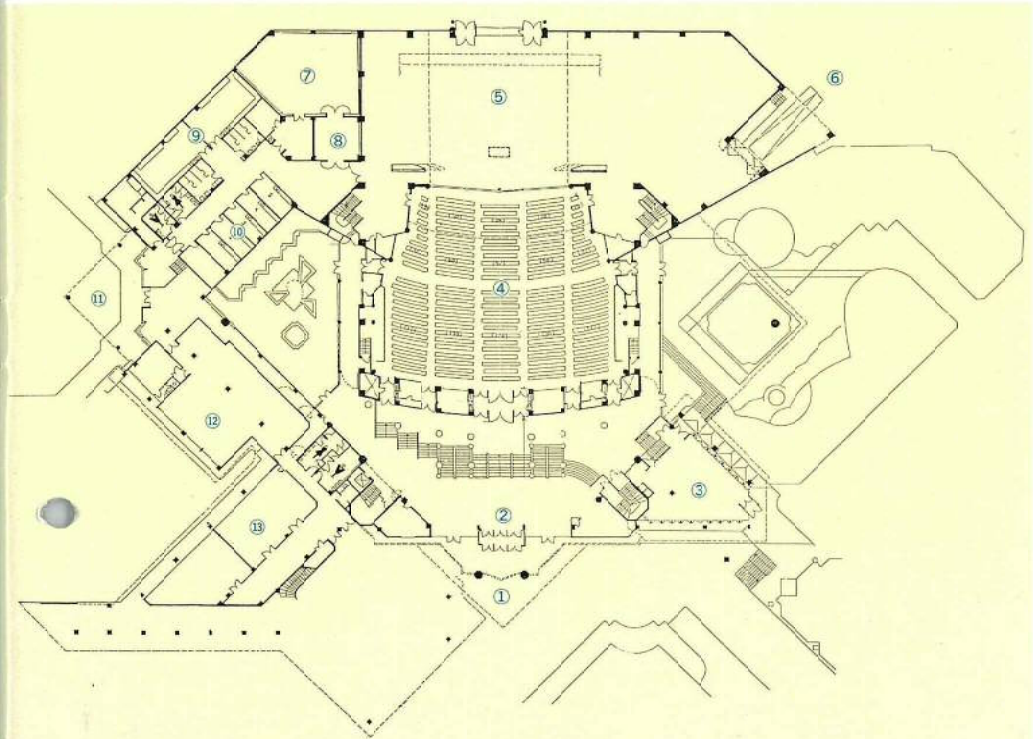
●劇場棟には、正面玄関の客用出入口の他に、沖縄コンベンションセンターと楽屋のための玄関を設け、また、大道具搬出入専用口を、トラックからの積卸しプラットフォームと共に設けている。

●劇場棟は1739席の多目的ホールとして、クラシックコンサート、オペラ、パレエ、ミュージカル、歌舞伎を含む様々な演劇、舞踊等、広い範囲の芸能催物を開催することができる。また、既設の2つの施設と関係して会議場としても大規模な高度の利用が可能である。

●客席は、両側の壁全体が、ガラスで組み立てられており、外の景色に開放されているが、更に舞台の後部(西側)にも大開口部を設け海の景観の中にこの劇場が存在することが強調されている。



メインプロローチの鐘楼



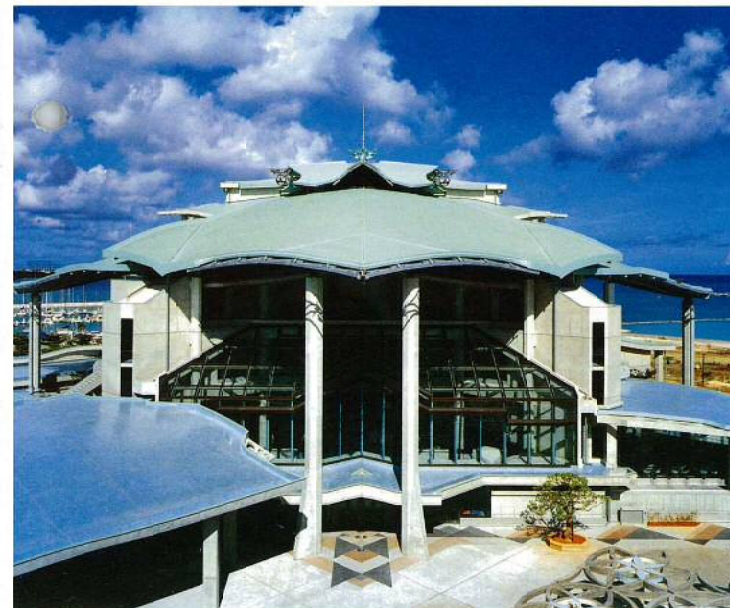
1階平面図



中庭より劇場内部を見る



外観南面



外観東面

1. 正面入口
2. ホワイエ
3. ラウンジ
4. 客席
5. 舞台
6. 大道具搬入口
7. リハーサル室
8. ピアノ庫
9. 大楽屋
10. 小楽屋
11. 楽屋入口
12. 事務局
13. 会議室

●各室の内容

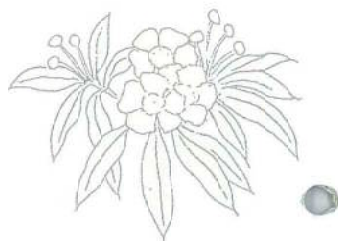
客席

●通常よりも天井高を高く(18~20m)とって、高く大きな空間を印象づけられるようにしている。(1人当たりの気積10㎡、普通は6~7㎡)3層で構成され、1階には花道の設置も可能である。1階客席後部は、大軍により、全面的に開放され、ホワイエと一体的につながり、大型の会議等の利用に配慮している。

■1階客席	1,047席
■2階客席	476席
■3階客席	216席
合計	1,739席

※他に、母子席20席を設けている。

オーケストラピット使用時	1,571席
花道使用時	1,635席
客席NC値は25以下	



ホワイエレリーフ



会議室



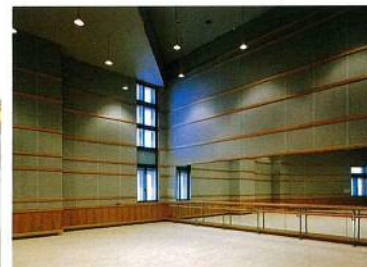
ステージより客席を見る



7

2階 ホワイエ

1階 ホワイエ



リハーサル室

ホワイエラウンジ

●海の景観を楽しむと同時に、会議棟、展示棟との間に形成された、水辺の中庭と一体の空間として利用できるように意図されている。

●約44席のラウンジはとりわけ海の景観と水辺の中庭の景観を享受できるように配慮されている。

●壁面のレリーフは、設計者自らの筆によるものである。また、花びら型の照明器具も建築の大屋根と共通のイメージを形にしたオリジナルデザインである。



大楽屋



ラウンジ

舞台

プロセニウム-開口巾：18.0m/高さ：10.0m/すこの高さ-24.4m/面積：36.0m×20.0mと720㎡/舞台後部は大窓により開放され、西に慶良間諸島が望める。

側舞台

舞台転換用の大道具置場：約340㎡/天井高さ：8~10m/大道具の搬入口は巾4.5m、高さ3.6mである。

リハーサル室

160㎡/天井高5.2m~7.5m/NC25以下/残響0.7秒/高い遮音性能を実現しているため舞台で開演中でもリハーサルが可能である。

ピアノ庫

舞台、リハーサル室に接して、24時間気候調節されたピアノ庫を備えている。

楽屋

大楽屋 52㎡/約20人 2室
小楽屋 16㎡/2~3人 5室

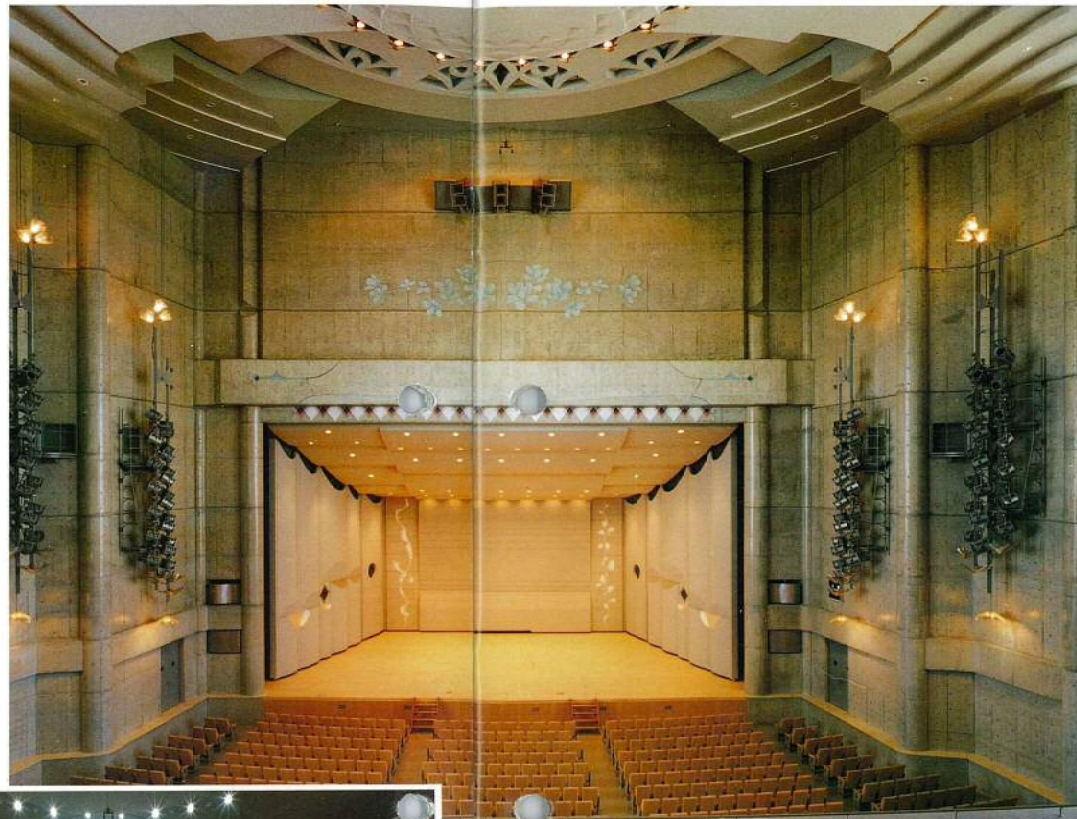
会議室

96㎡(30席の会議室) 1室
78㎡(20席の会議室) 1室

8

●舞台機構の概要

- オペラをはじめとする多様な舞台芸術活動や会議、集会に対して、例えば広い舞台や仮設花道の設置可能性の確保、ポータル設備、オペラカーテン、音響反射板、オーケストラ迫り、小迫り、コンピューター調光卓等の舞台諸設備の導入により、高度な水準で多目的な利用に対応することを可能にしている。
- オペラカーテンには、海外の優れた製品を購入する等、国際性に富んだ設計を行っている。
- どこにでもあるような公共ホールとは一線を画し、晴れやかな舞台にふさわしい気品のある独創性豊かな建築空間を創造している。これはホールの個性という意味で大きな財産である。
- 大型のホールとして今までにみられない手法により、積極的に外光を導入した。このことは例えば昼光の中でクラシックコンサート等、新しい形式の芸術上演が可能となるばかりでなく、舞台仕込み作業等における作業効率の向上や省エネルギーにもつながる。



2階 ホワイエ(入口廻り)



2階客席よりステージを見る(反射)



1階客席よりステージを見る(絨帳)

■ポータル設備

開口巾：16.45m～21.0m 高さ：6.0m～11.0m

■オーケストラ迫り

大編成対応レベル、中編成対応レベル、舞台レベルに昇降し、また座席ワゴンに乗せて客席に転換することもできる。

■音響反射板

開口巾：前面18.0m 正面12.3m 奥行：10.75m
高さ：前面10.0m 正面6.9m

■スクリーン設備

スクリーン設備を設け、映写室より映像映写

■絨幕及びバトン

絨帳、オペラカーテン(西独 グリエッツ社製)他諸幕23、
ライトバトン7、道具バトン12